

単元名 **なんじなんぷん**

配当時間 **2時間**

単元の目標 (1) 時計の文字盤の仕組みについて知り、何時何分の時刻の読み方を理解し、何時何分の時刻を読んだり、文字盤で表したりすることができる。
(2) 時計の長針・短針の指す目盛りに着目して、時刻を考えることができる。
(3) 日常の生活場面に即して、進んで何時何分を読もうとする。

標準的な展開例

01040302_001

【準備等】時計の大型模型、時計の模型（児童用）

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 何時何分の時刻を読む。[p. 144・p. 145]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ なんじなんぷんのよみかたをしらべよう。 ○ 何時何分の読み方を知る。 ○ 何時30分の読み方を知る。 ○ 「練習問題」に取り組む。 <p>2 何時何分の時刻を表す。[p. 146]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ とけいのはりをあわせよう。 ○ 「練習問題」に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 短針で何時を読み、長針で何分を読むことを伝える。 ・ 9時3分の時計を示し、何と読んだらよいか考えさせる。 ・ 短針で何時を、長針で何分を読めばよいことを確認する。また、小さな目盛りが1分を表していることを伝える。 ・ 9時半と9時30分は、同じ時刻でも別の言い方であることを伝える。 ・ 9時57分について、短針が10時に近いので10時57分と誤解しないように指導する。時間の経過を考え、まだ10時になっていないことを確認する。 【評】 時計の時刻を読む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 5とびで数えた後、1分ずつ数えて合わせると便利であることに気付かせる。 ・ まず「時」、次に「分」を合わせる。 ・ 50分以降は、短針の何時を間違えないように注意させる。 【評】 時計を使って時刻を表す活動を通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

時計の読みは、「10 なんじ なんじはん」の単元において、何時、何時半について学習してきている。日常生活の中でも時計は身近な存在であるので、数多く目にしたり、時刻を決めて生活する経験をしたりしてきていると思われる。しかし、何時何分まで正しく時計を読むことに難しさを感じる児童も少なからずいる。時計の読みは日常生活上必要なことであるので、しっかり身に付けられるように指導したい。また、既習の「何時半」という言い方は「何時30分」の別の言い方であることを確認する必要がある。児童に観察させて読み方を発見させる指導法も考えられるが、短針で何時を読み、長針で何分を読むことを確実に指導する。児童の実態に応じ、5とびの数を時計の数字の横に表示して読ませてもよい。生活の中で日常的に時計を読む習慣を付けさせたい。